

北九州銀行門司支店

この建物には、外国為替や対外貿易の資金調達を取り扱った横浜正金銀行の支店として1934年に開業したのを皮切りに、多くの銀行が入居してきた。

地域の他の歴史的建造物に比べて、この銀行の建物はより顕著な古典主義的なデザインである。これは設計者であるロンドンで学んだ建築家の桜井小太郎（1870-1953）の特徴であり、彼は自身を古典主義者と考えていた。桜井小太郎は、窓の上に施された浮き彫りの花飾りや、ドアの両脇に配されたピラスター（ギリシャ・ローマ時代の柱のようなデザイン要素）によって、この古典的な雰囲気を実現した。

この銀行が港よりも市街地に近い場所にあるのは、横浜正金銀行が港周辺に集まっていた旅行者や船会社よりも、むしろ法人顧客を対象としていたからである。これは門司に繁栄の波が広がっていたことを示しており、住民も観光客も港から比較的離れたファッション・ブティックやレストラン、娯楽施設に足繁く通った。門司には富が集中しており、日本銀行を含む多くの銀行の支店が門司に開設された。

横浜正金銀行は1946年に閉鎖され、この建物は山口銀行（本店は海峡を隔てた下関市にある）が管理することになった。その後、山口銀行は山口フィナンシャルグループ（YFG）となり、2011年、北九州での事業を担う子会社として北九州銀行を設立した。